

放課後図書室にカフェ

国立の中学

放課後の学校カフェでゆっくりと勉強やおしゃべりはいかが。国立市の中学校で、定期試験前に図書室をカフェとして運営し、生徒たちを呼び込むユニークな取り組みが始まった。図書室を開放して生徒たちに勉強できる場を提供し、新たな居場所にしてもらうのが狙いだ。カフェを企画、運営しているのは生徒たちで、「学校生活を楽しくめる入り口のような場所になれば」と張り切っている。(井上勇人)

生徒企画運営 新たな居場所

■勉強や談笑
学校の図書室に特設されたカウンターで、エプロン姿の生徒たちが注文取りや飲み物の用意にいそいそと働いている。図書室カフェ「マイハル」は同校の生徒会が運営し、



図書室に設けられたカウンターで飲み物を手渡す生徒会のメンバー(右)(国立市立国立第三中学校で)



受け取った飲み物を飲みながら図書室で勉強する生徒たち

生徒会のメンバーと学校活動を支援するボランティア「地域学校協働活動推進員」たちが注文取りや飲み物の用意などに当たる。

今年6月の期末試験前に初めてカフェを4日間オープンしたところ、授業を終えた生徒たちが連日行列をつくる盛況ぶりだった。友達とともに試験勉強のためを訪れた1年生の村松遼君(12)は「学校の図書室で飲み物をもらえて、友達と勉強できるし、最高です」と笑顔を見せた。

■生徒会主導で
生徒たちの自主性を重んじた。

中学生たちの放課後の居場所をつくらうとする取り組みは、都内各地で行われている。

豊島区教育委員会は昨年5月、協定を締結したNPO法人とともに、区立西池袋中学校に「にしまるーむ」をオープンさせた。学校のホールを週に3回程度開放し、放課後の生徒たちが談笑したり勉強したりできるようにしており、学校に行きづらい生徒のみが利用できる時間帯も設けている。区教委の担当者は「西池袋中学校の取り組みを

じる同校では、これまでも期間限定で私服登校を実施したり、生徒たち自らが不合理的な校則の見直しを提案したりと、生徒会が主導して様々な取り組みが進められてきた。

今回の図書室カフェのきっかけは、生徒会が実施したアンケートで「勉強に集中できない」という回答が相次いだことや、保護者から学校側に「家が狭く、子供が落ち着いて勉強する場所がない」などの意見が寄せられたことだった。今年2月の期末試験前に、生徒会の提案で図書室を自習場所として開放したところ、4日間で全校生徒約330人の半数が利用した。その好評ぶりを見た山口茂校長(62)が「学校内で生徒たちが一息つける場所を設けてはどうか」と生徒会に提案し、図書室カフェが実現した。

飲み物の購入費こそ学校側が負担したが、飲み物を外に持ち出さないことや、会話の声の大きさは「ぶつう」にすることなど、利用方法やルールは生徒会で決めた。7月の夏休み前にも実施したところ、多数の利用があったという。

生徒会長として図書室カフェの取り組みを熱心に進めた横濱航真さん(14)(3年)は「飲み物の提供方法などに課題はあるけれど、多くの生徒が利用して喜んでくれて良かった。改善しながら今後も続けていきたい」と意気込む。

各地で取り組み様々

豊島区や西東京市

参考に、子供たちの居場所を増やしていきたいと話している。西東京市では、地元住民や保護者らが協力し、市立中学校の図書室や視聴覚室などで放課後にカフェを開いている。カフェを企画した市民団体「西東京子ども放課後カフェ」によると、かつて市内の7校で開催されていたが、コロナ禍を経て現在は2校に減ってしまったという。団体は「まだ再開していない5校でも、また放課後カフェを復活させたい」としている。

6月に実施した三中カフェ(マイハル: MYHA³RÜ)が本日の読売新聞に大きく取り上げられました